はまなす

公益社団法人北海道看護協会札幌第4支部だより

■発行所:公益社団法人 北海道看護協会札幌第4支部 編集責任者 中川千江子

HOKKAIDO NURSING ASSOCIATION HAMANASU



撮影:河村幸康 場所:はまなすの丘

Contents

- 令和4年度 札幌第4支部 研修報告
- TOPICS 施設紹介 社会医療法人社団三草会 クラーク病院

●令和4年度 札幌第4支部大会のお知らせ 他





「地域連携」

■日 時:2022年6月11日(土)9:20~12:20

■場 所:ZoomによるWeb研修

■参加人数:31名

■講 師:市立札幌病院 地域連携センター 相澤 友子 氏

さっぽろ在宅医療クリニック 斎場 江里子 氏

社会医療法人社団 愛心館 来夢ライン

森明恵 氏

午前は病院と在宅医療クリニック、訪問看護それぞれの講師 3人の立場からお話を頂き、午後からは参加者を6つのワーキ ンググループに分け発表を行った。

講義では「その人」の情報収集の観点では既に入院前からの関わりが重要で、入院への意思決定・家族の思い・病院側と患者側の双方の価値観を確認しておくことが退院の成立となる。療養通所でも医療依存の程度と介護の必要性によってはbed to bedの24時間対応となることもあり、入退院・通院・通所・入退所の全てにおいて"入る時""出る時"は常に患者・利用者を中心に連携がされている。

「その人」を取り巻く人達と「その人」の思い・その人らし さを大切に、病院もクリニックも介護施設もリンクし、途切れ ることなく情報収集方法・共有と伝達の工夫を課題として取り









組むことが重要だと話された。そしてその手段としてはコロナ 禍の面会制限のある反面、WEB会議やメール連絡・写真や動 画の活用、とハイブリッドな活動が今は主流になっており、カンファレンス風景や自宅での生活を伝える写真などが事例の中で紹介されていた。また連携のためには相手への思いやりとして「遠慮なく電話連絡をください」と一言付け加えるだけで、円滑なやり取りとなる事が生の声として聴かれた。

研修場所である看護協会を訪ねたことで、ZOOM研修の準備、調整、運営の実際を見ることもできた。様々な場所にいる会員がIT時代のお陰で一堂に会し、学習・ディスカッションできるのも沢山の人がかかわり連携をとっているからなのだと感じた。

(記:本間)

札幌第4支部

「災害対策について学び、これから起こる災害に向けて備えよう!~それぞれの施設でできること~」

日 時:2022年7月9日(土)13:30~15:00

■場 所:ZoomによるWeb研修

■参加人数:200名

■講師:札幌医科大学医学部救急医学講座教授 副院長

成松 英智 先生

豊富なご経験を踏まえ、私たち医療従事者が今後直面するであろう災害医療についてご講演を頂きました。

混乱のなかでは、災害医療の流れを総合判断し、医療形態を変え、鬼のような気持ちで「トリアージ」が必要になります。さらに勤務先においては、スタッフの安全管理をし、就業可能な職員を集め、必要なら院内託児所等働ける工夫、またICUトリアージなどの法的責任の所在を事前に組織として考えておく必要があります。厚真町地震では、医療機器の配線不適切や自家発電蓄電不備、また病院食の手配が問題となったそうです。

最後にトリアージ方法の質問については、「こっちにきて」

ENTOCOLO

STATU

TO 107-1-48558

AN 144-1-48558

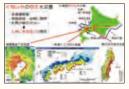
AN 144-1-48558

AN 144-1-48558

AN 144-1-48558

AN 144-1-48558

AN 144-1-4858





と叫び、歩けたら軽症。動けない人を調べ、意識・呼吸・循環動態どれか1つでも異常なら重傷と判断ができる、との説明を 頂きました。

新型コロナウイルス感染症流行も災害ですが、すべての病院が前向きではありませんでした。北海道は「巨大な離島」と考え、巨大地震後1~2日間は現地で何とかする必要がありそうです。行政・医療機関が団結し、質の高い医療提供ができるよう、日頃の備えが重要と感じた大変わかりやすく士気が高められる講演となりました。

(記:川原)

看護師職能委員会

在宅における、皮膚ケアの実際~失禁・褥瘡ケアを中心に~

□ 時:2022年7月9日(土)14:00~16:00

■場 所: ZoomによるWeb研修■参加人数: 25名+オンデマンド120名

■講 師:江別病院 皮膚・排泄ケア認定看護師

畠山 誠 先生

看護師職能委員会は、オンライン+オンデマンド配信での 研修会としております。今回は、畠山先生からとてもわかり やすく、実践的なご講演をいただきました。

病院と違う在宅での環境下で、皮膚状態の観察点や対応の方法などを具体的に楽しくお話しをしていただきました。

テープ式オムツのサイズ、ほとんどの方がLサイズではないかと思っていましたが、適切に着用すると、だいたいの方がMサイズもしくはSサイズでよいとお聞きし、いかに体型に合ったオムツを使用していなかったのかと目から鱗でした。講師の畠山先生は身長180センチ以上だそうですが、Mサイズだそうです。適切なサイズのオムツを使用することで漏れもなくなるとお聞きして、しっかりアセスメントしていく必要性を改めて学ぶことができました。

(記:看護師職能委員会)



助産師職能委員会

「明日から活かせる!ウィズコロナ社会の助産師教育をみんなで考えよう!」 「働く助産師のメンタルヘルス ~ストレスを味方につける!モチベーションマネジメント~」

■日 時:2022年7月23日(土)10:00~14:30

■場 所:ZoomによるWeb研修

■参加人数:38名

■講 師:札幌医科大学 保健医療学部 正岡 経子 氏

北翔大学 佐藤 至英 氏

午前の正岡経子先生による講義は、2021年に改訂されました「助産師のコア・コンピテンシー」に基づき行われました。

昨今、妊娠・出産・育児を取り巻く現状は目まぐるしい変化があり、これからの助産師は少子化や核家族、晩婚化や高齢出産など多くの課題がある中、助産師の活動の変革が求められている状況がよくわかりました。

また、コロナ社会における助産師教育について、アンドラゴジー (成人学習) として、自分にとって意義ある経験を振り返ることができるかが重要であり、助産師だけではなく、コロナ禍において限られた環境の中で学習をしてきた新人看護師にとっても共通する内容であり、大変興味深い内容でした。

午後の佐藤至英先生の講義は先生のユニークな人柄がzoomによる画面越しからも伝わる内容でした。プラスの思考や言葉を持つことの大切さを学ぶことが出来る大変有意義な研修でした。

(記:秋山)







教育委員会

「看護過程」

□ 時:2022年8月24日(水)9:30~15:45

■場 所:ZoomによるWeb研修

■参加人数:34名

講師:北海道科学大学 保健医療学部 看護学科

急性・重症患者看護専門看護師 石川 幸司 氏

中川支部長から看護の動向について2025年から2040年問題となり、生産人口が減少して社会保障給付が減少すること、SDGsの取り組みについてなどの講義がありました。

健康寿命を延ばすことが医療費の増加を防ぐこと、給付と負担の見直しをして社会保障の持続可能性の確保が必要とのことでした。

看護過程の研修では昨年に引き続き、北海道科学大学石川幸司先生から、看護過程の内容についてわかりやすい講義がありました。

事前アンケートでコロナ禍において情報収集する場面が減少し、個別性を出すことが課題としている参加者が多く、専門的知識とアセスメントをしっかりとすることで個別性に繋がるとの先生の言葉もあり、講義とグループワークでのセッションから、個々の課題を共有して解決に繋がる内容でした。

(記:教育委員会)



保健師職能委員会

心身ともにいきいきと働き続けられるために ~自分自身に気づいてセルフケアしつつ周囲との関係を豊かにする~

□ 時:2022年10月22日(±)13:30~15:30

■場 所:ZoomによるWeb研修

■参加人数:31名

I講 師:株式会社Dream Seed 代表取締役

三井 洋子 氏

今回の研修会は、対人援助職である私たち自身が、心身の 安定を保ち働き続けるための考え方や周囲との関係づくりを 学ぶ機会として行われました。講師には、これまで保健医療 専門職が健全さを保つために多くの研修会を開催している三 井洋子先生をお迎えしました。

講義では、自分を大切にしながら相手を尊重するためのストロークの交換やアサーティブに伝えることについて、具体的な状況を含めてお話がありました。また、「セルフケアの第一歩は自分自身の心身の状態に気づくこと」であり、自分に湧いた感情を抑え込まずに受け入れ表現する過程を①感情に気づく②感情を表現する③表現してチェックしてみる④受け入れるとして、具体的な場面とともにお話下さいました。少人数のグループで話す時間もあり、看護専門職として関わる私たちが自分と相手も大切にするために、日常を振り返り考える機会となりました。

(記:教育委員会)





札幌第1支部・札幌第2支部・札幌第3支部・札幌第4支部

看護職能団体としての役割と課題を理解し共有すると共に、 懇談を通して情報交換により、地域のネットワークを構築する。

第一部「看護の動向」 第二部「どうすれば?多様な人材を「活かし・育てる」キャリア支援。」

■日 時:2022年10月29日(土)10:00~15:00

■場 所:ZoomによるWeb研修

■参加人数:約150名

■講 師:公益財団法人 北海道看護協会 副会長

深津 恵美 氏

公益財団法人日本看護協会

神戸研修センター教育研修部長 渋谷 美香 氏







昨今、感染症や経済の低迷など日本のみならず世界の変化の中で、看護師はあらゆる場所で必要とされています。さらに自らの労働条件の改善や資質の向上などにも取組む必要があります。2040年を見据えた少子・超高齢化・多死社会における保健・医療・福祉体制の再構築は、看護職が立ち向かっていくべき大きな課題です。

北海道看護協会は、22支部と多数の支部で構成されていることから、情報共有を大切にし、【方針1】看護の質向上と役割拡大の推進、【方針2】全世代型地域包括ケアシステムの推進、【方針3】看護職を続けられる職場環境づくりの推進とし、全世代を対象とした地域包括ケアシステムの充実に向け、看護専門職としての力をさらに発揮できるよう看護職間の連携や他職種との協働を推進します。

一令和4年度「看護の動向」北海道看護協会資料より一

2025年団塊の世代が75歳を迎えるにあたり、医療・介護のニーズが増大し、医療従事者の確保困難が考えられ、「完治して退院できる患者」が減り、退院後も病気と付き合いながら生活する患者」が増加し生活を重視する制度に向かいます。全世代型地域包括ケアシステムでは、【地域包括ケアシステム構築への参画】や【暮らしの場における看護機能の強化】が重要となり、患者・住民に質の高い保健、医療、介護等のサービスを必要時に切れ目なく提供していくために、『確かな看護スキル』『生活の質の視点』『地域マネジメント』が求められます。

施設内教育の基本的な考え方については、人々の暮らしと 医療を支えるために、専門職としてキャリア開発の基盤とな

る看護実践能力を段階的に開発していくラダーが必要で、参 考にすべき継続教育のJNAラダーや活用ガイド等を参考にで きます。看護管理能力の育成についても、病院看護管理者の マネジメントラダーの活用が期待されています。また中途採 用者の育成については、ポイントを示し、職場適応を促して 実践能力を高める支援が必要です。実践の中で経験を積むた めの目標を設定し、評価→進捗確認→振り返りを行って、出 来なかったことを追求するのではなく、次に同じことが起 こったらどのように行動すべきか?未来に向けて対応策を確 認することが大切です。また管理者がプリセプターの自信を 生み出し、決して順番だからではなく、能力を評価し伝えて いくことが重要となります。更に、発達障害やパーソナリ ティ障害が疑われるグレーゾーンのスタッフへの対応や支援 については、専門家に相談するなど関わり方を変え、こちら が出来る配慮や、「考える教育」ではなく「覚える教育」に変 えるなどのアドバイスがありました。最後に認定看護師教育 については、全国で活躍されており、今後「治す医療」から 「治し支える医療」に変化し、認定看護師への期待は高まって います。キャリア支援については、「ライフキャリア」と「看 護師としてのキャリア」の2側面で捉え、考えすぎて動けな くなるより、とにかく行動に移すことも大切で、キャリアの 8割は、偶然の出来事によって形成されるようです。自分の キャリアを切り開くためには、現状の変化を待たず、自分か らやりたい看護のために動くこと、状況を楽しみながら邁進 すること、また時には状況に身を委ねてみるのも重要とのこ とでした。

看護師職能委員会

「生きることを支える看護を目指して~がん看護の実践から~」

<u>日時:①オンライン開催(Zoom)</u>

2022年10月29日(土)14:00~16:00

②オンデマンド配信(YouTube) 2022年11月28日(月)~12月23日(金)

■場所:ZoomによるWeb研修

■参加人数:15名

■講師:北海道大学病院がん患者サポートナースセンター

看護師長 がん看護専門看護師 石岡 明子 氏

北海道大学病院のがん専門看護師石岡氏により、「我が国のがん対策から見た支援の必要性」、「がんサバイバーシップとは」「実際のがん看護の実践」の講義を事例紹介も含めた内容で研修が行われました。我が国のがん対策は2007年から10年ごとに見直しをされ、現在第3期がん対策推進基本計画が推進されています。それらの中で、がんゲノム医療の実際やAYA世代におけるがん対策についてのお話を聞く事が出来ました。なかでも印象的だったのは、AYA世代のがん患者さんは就学、就職、結婚など様々なライフイベントに直面し、一人ひとりが自分らしく過ごせるためのサポートと家族支援が

必要ですが、事例紹介の中での石岡氏とスタッフの看護の実践は、真摯な取り組みが伝わり大変興味深いものでした。昨今のコロナ禍の影響も大きく、面会もままならず家族との情報共有の不足や家族ケアが行き届かない等の変化が起きていましたが、困難な状況を医療者側から今後の療養場所について切り出すきっかけと発想を変え、話し合いの場を積極的に設けていたことには困難だけにとらわれず、まさに今回の研修テーマでもある「生きることを支える看護を目指して」に取り組まれている看護の実践を知る大変すばらしい機会となりました。

教育委員会

アサーティブコミュニケーション

■日 時:2022年11月5日(土)10:00~12:00

場 所:ZoomによるWeb研修

■参加人数:46名

■講師:北海道医療大学 看護福祉学部

生涯発達看護学 (精神看護学)助教 精神看護専門看護師 中西 隆志 先生

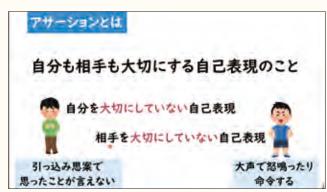
今回の研修では中西先生から「アサーションとは」、「アサーティブコミュニケーションによる期待される効果」、「自己表現の3つのタイプ」についてご講義いただきました。

参加者は自身がアサーティブになるために、自己を振り返り、自己表現のタイプを確認しました。個人ワークでは『DESC話法』を用いて、模擬事例のアサーティブな表現方法の検討、セリフ作りの練習を行いました。

後半は参加者がGoogleフォームに「これまでの経験の中で自己表現が難しかった場面」を入力し、具体的な事例を元にアサーティブな自己表現を阻害、促進する要因を検討し理解を深めました。Web研修ではありましたが、参加者からは学びが多く得られたと感想が得られ、今後の実践に結びつく研修を開催することができました。

(記:種市)





TOPICS 施設紹介 第15回





クラーク病院は1986年に整形外科を中心とした病院として札幌市東区に開院し、2003年にはクラーク病院リハビリテーションセンター竣工もされ、現在の225床となりました。内訳は急性期一般病床(90床)、回復期リハビリテーション病床(90床)、地域包括ケア病床(45床)となっています。標榜科目は整形外科/リハビリテーション科/内科/循環器内科/消化器内科/泌尿器科/リウマチ科/麻酔科となっており、地域医療と札幌近郊のリハビリテーション医療を担っています。整形外科手術は年間約700件行っており、脊椎手術・骨折手術・人工関節手術・腱や靭帯手術と多岐にわたり、急性期一般病床では整形における術前術後の看護と内科的治療に関わる看護を行っています。回復期リハビリ病棟では脳血管疾患によるリハビリテーションを中心に、リハビリスタッフや医療ソーシャルワーカー等と多職種連携を必要とするチーム医療の実践。地域包括ケア病棟では在宅や介護施設への退院に向けた準備・支援の連携やサポートを担うなど、それぞれの特色をふまえた看護に日々取り組んでいます。

看護部における看護部理念は「これまで」「いま」「その先」を支える心に寄りそう看護であり、患者様やご家族が回復する過程に関わることで喜びを感じ、信頼してもらえる看護を提供できるよう取り組んでいます。2017年には同法人内で三草会札幌看護専門学校が開校され、他の看護学校も含む看護学生の実習を積極的に受け入れており、臨床指導者の育成や教育関連においても力を入れています。

現在、クラーク病院では、新人からプラチナナースまで幅広い年齢層のスタッフ がそろっています。定年後も継続して働ける環境づくりや、新人研修など各種研修 など教育環境の充実にも力を入れており、新人や中途採用者の方も安心して働ける 環境づくりに取り組んでいます。院内には保育園も併設しており、出産後も働き続 けることができる環境となっています。中には新人だった看護師が、数年後にはマ マさんナースとして成長していく姿に月日の経つことの早さを日々感じるこの頃で す。院内の渡り廊下には季節を通して、保育園の園児の作品が並べられ、リハビリ に取り組む患者様や、私たちスタッフに安らぎを与えてくれています。感染対策と して、なかなか保育園児との交流の機会が少なくなってしまいましたが、作品や園 内でのハロウィンやクリスマスの催しの様子を院内の掲示板などで知る機会も多 く、日々の業務の癒される時間となっています。また、近年は感染症対策などで忘 年会や親睦会など、これまでのような他部署どうしのスタッフ間のコミュニケー ションの場が少なくなってしまい、少し寂しいところではありますが、Zoomを用 いた親睦会の企画や、感染対策をしながら各種研修や、中途採用者の懇親会などに 取り組み、コミュニケーションの機会を設け、働きやすい環境づくりに向けて日々 取り組んでいます。

社会医療法人社団三草会 クラーク病院

〒065-0042 北海道札幌市東区本町 2条 4丁目 8-20 TEL.011-782-6160 FAX.011-782-4850

Topics

施設紹介

社会医療法人社団三草会 クラーク病院



リハビリ訓練室



保育園児たちのハロウィンの仮装の様子1



保育園児たちのハロウィンの仮装の様子2



保育園夏祭り 親子で参加







北海道看護協会札幌第4支部では、看護の質の向上をめざし た活動や事業を行っています。また、看護職を取り巻く環境が 大きく変化している今、多岐に渡る研修が準備されています。 研修に参加して友達の輪を広げましょう。

入会は、右記までご連絡ください。



連絡先 北海道看護協会総務課



電話 011-863-6731







季節の風景・看護の風景・ご自身の作品・ ペット紹介など、なんでもOKです。



自薦他薦かまいません(写真数枚、本文400字程度)



連絡先 札幌第4支部 広報委員会

北海道大学 保健センター 川原 由佳子

Email: yuka2016hoken@gmail.com

編集後記

北海道は全国に先駆けて新型コロナウイルス感染症の再流行(第 8波)となり、皆様も感染症対策に追われていることと思います。そ のような中、地域における健康と療養を支え、看護職の裁量発揮が求 められていることをひしひしと感じております。札幌第4支部だよ り「はまなす」は、今後ペーパーレス化によりQRコードからアクセ スとなります。これからもどうぞよろしくお願い致します。

(記:川原)



保健師:101名 看護師:4,542名 助産師:226名 准看護師:117名

2022年11月末会員数:4,986名 2022年度札幌第4支部目標会員数:4,993名